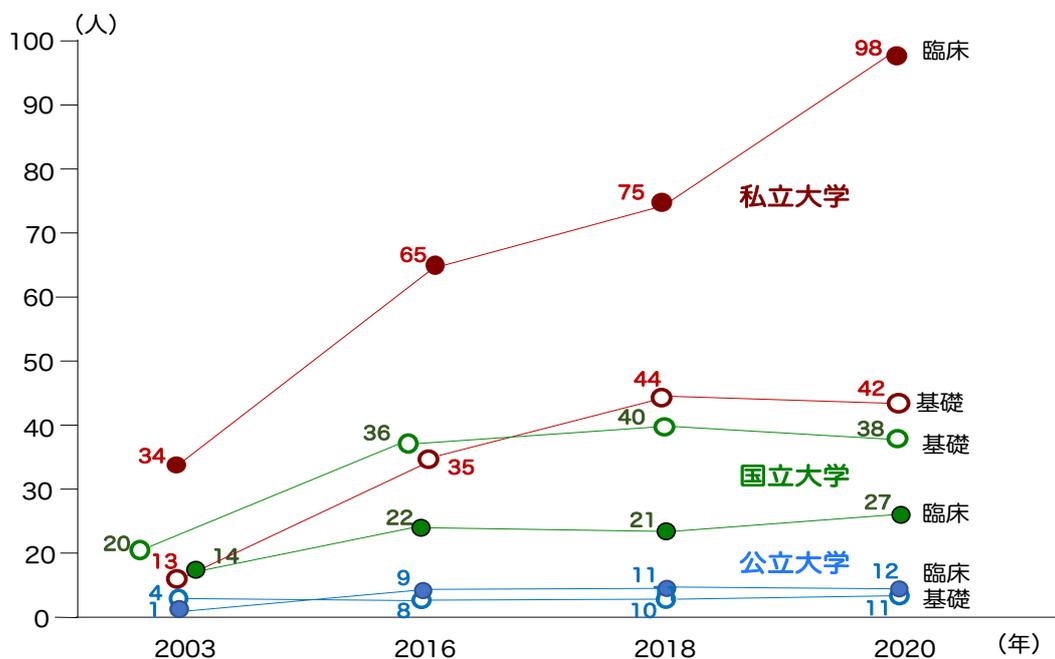


5. 意思決定の場への女性参画：大学医学部有給教員数の比較

我が国では意思決定の場への女性参画が遅れている。医学部における女性教授数の少なさはその一つの現れである。2003年からの推移を見ると、2016年に女性教授数は倍数になっているが、公立、国立大学ではここ6年間は横ばいである（図9）。

2016年から2020年までの全国大学医学部の有給専任教員（教授、准教授、講師）数および女性比率を、基礎・臨床別に比較した（図10）。基礎では黄色で示した教授の女性比率は6.2%から8.4%へ、准教授は16.8%から19.4%へ上昇しているが、講師の女性比率は低下している。一方、臨床では教授の女性比率は相変わらず5%に満たない。講師の女性比率がかなり多くなっているのが目立つ。

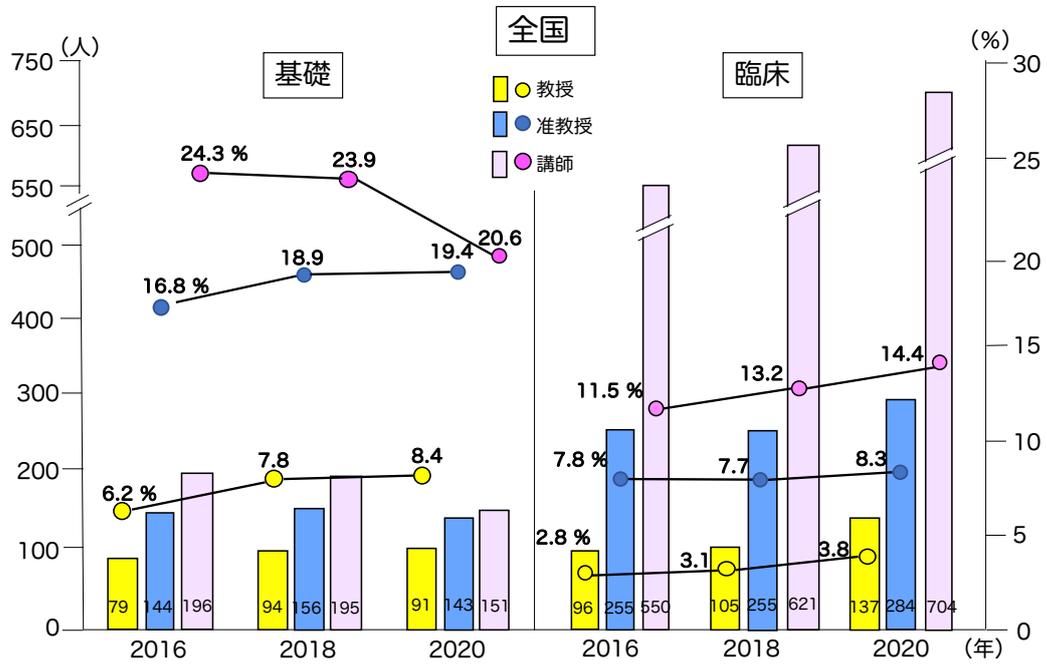
図9. 大学別、分野別の医学部女性教授数の推移



大学別、分野別の医学部女性教授数の推移

医育機関名簿：羊土社、2003
 全国医学部長病院長会議白書調査2016、2018、2020年

図 10. 大学医学部の女性教授・准教授・講師数および女性比率（全国）



大学医学部の女性教授・准教授・講師数および女性比率

全国医学部長病院長会議白書調査2016、2018、2020年